

酒造好適米品種「吟ぎんが」の栽培法

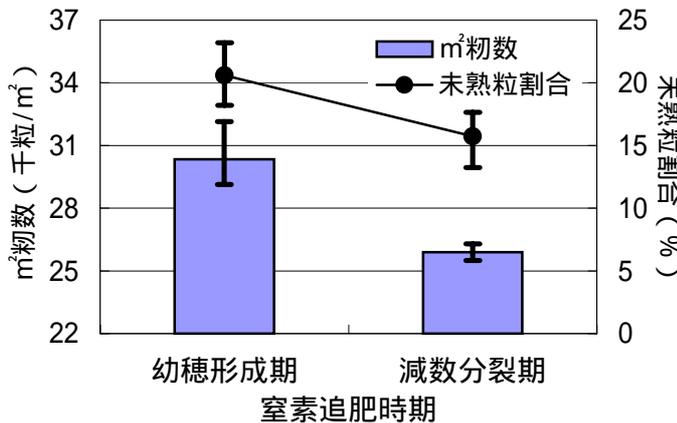
酒造好適米品種「吟ぎんが」について、醸造適性を満たしかつ安定的な収量・品質を確保するための栽培指標として、収量構成要素、施肥法、栽植密度、刈り取り適期を示した。

表1 収量構成要素の指標

稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	一穂 粒数 (粒)	m ² 当たり 粒数 (千粒)	登熟 歩合 (%)	2.1mm 千粒重 (g)	2.1mm 収量 (1.9mm 収量) (kg/10a)
83~90	320~350	75~80	25~28	85~ (75~)*	27	540~580 (580~630)

注) 栽植密度は22株/m²。

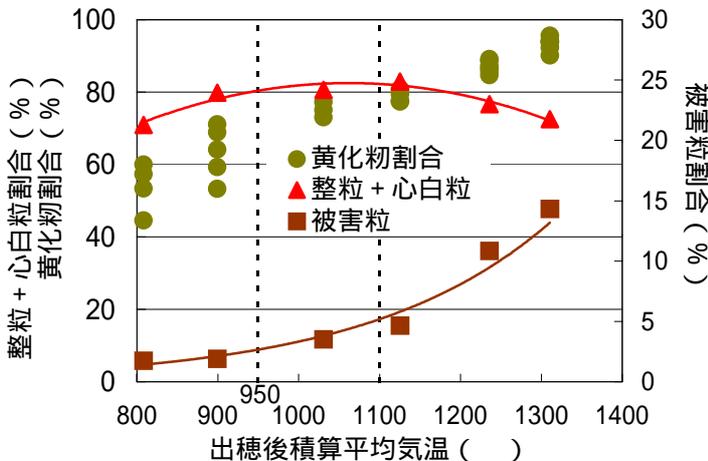
* : 総粒数に対する2.1mm調製玄米の粒数割合(%)。



幼穂形成期追肥では粒数が多くなり、未熟粒割合が高くなるので、追肥は減数分裂期重点に2kg/10a程度とし、白米中の粗タンパク含有率を高めないように、基肥窒素量は美山錦並からやや多めの4~5kg/10aとする。

注) 施肥窒素量が基肥4, 5, 7kg/10a、追肥 " が2kg/10aでの比較。
Y軸誤差範囲は、データの分布幅を示す。

図1 窒素追肥時期と粒数及び未熟粒割合の関係 (平成10~11年: 銘柄米開発研究室)



刈り取り適期は、出穂後平均気温で950~1,100とし、刈り遅れにならないよう黄化粒割合80%程度を目安に刈り取る。

注) 平成11年 銘柄米開発研究室データ
被害粒は主に発芽粒、胴割粒、茶米である。

図2 出穂後積算平均気温と整粒+心白粒(自然乾燥時)